

# 東 都 大 学 図 書 館

通信 幕張キャンパス 第14号

【編集】 幕張分館司書 井本紗織

【編集協力】 幕張分館図書館運営委員会

看護学科……………阿部由喜湖

理学療法学科…舟橋久幸・平野康之

臨床工学科……………土井根礼音

## 先生のオススメ図書『母はもう春を理解できない 認知症という旅の物語』 看護学科 講師 内野良子

皆さんは、認知症という言葉から何をイメージされるでしょうか。ある人は、「何も分からなくなる」「一人ではなにもできない」「怒りっぽくなる」「怒鳴る」と言われるかもしれません。いずれにしても、あまり良い印象はないです。そして、「認知症について教えてほしい」「認知症ケアについて知りたい」と前向きに認知症の知識を学ぼうとされる方々も多くいます。認知症を知ることは、知識だけなら多くの書物から学ぶことができるでしょう。

私は、認知症を患った本人や本人にかかわる方々のお話を聴かせていただく時に、本人が生きてきた人生の数だけ現れる症状に違いがあり、かかわる側の人生の数だけ困りごともあり、似ているようで似ていないことから、毎回しっかり悩むことが多かったです。

私自身の生きる要領の悪さかなと自問自答しつつ、それでも認知症という病気であっても一生懸命生きる本人がいて、それを必死に守ろうとする支援者がいる、だからみんな悩むんだろう、私で役に立つことが何かあるから、ここに呼ばれたんだと自分に言い聞かせていた時期がありました。私の母は、私が実家に戻る日をカレンダーに書き込み、父に孫の名前を書いたメモを渡して、予行練習をしていたと同居の弟から母が亡くなってから聞かされました。母も、「日々忘れることが多くなったことを感じ、それでも必死生きていたんだなあ。」と改めて思い知りました。

この本は、私が母親の認知症に対する思いと重なるような場面が多くあり、時々詩集と一緒に読んでいる本です。内容は、著者の母親の介護体験が語られています。母親とのかかわりを、父親の介護の姿勢や生活の何気ない一場面から、母親がどのような思いで生活をしてきたのか、認知症になったことでどう変化したのか、著者は当初どう向き合い、その後どう変化していったのかをエッセイとして書いています。

認知症を知るときに、知識を知ることでも大事ですが、その人の人生に触れてみることで「認知症の●●さん」から「●●さんの認知症」と見え方が変わるかもしれません。認知症は疾患ではありますが、個人の症状は、個性として受け止めることで、今までの認知症に対するイメージも変化するかもしれませんね。日頃、認知症に影響をされて、生きづらさを抱えて生活をされている方が、少しでも少なくなることを願って、書かせていただきました。

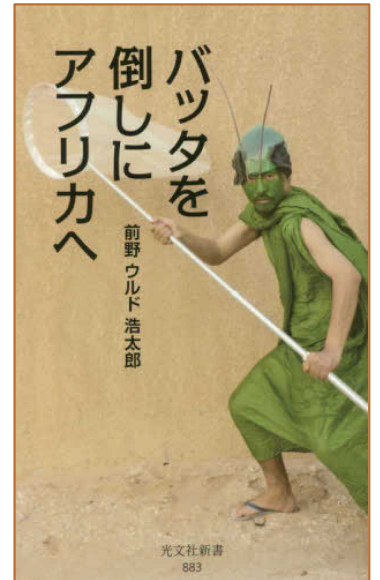
『母はもう春を理解できない 認知症という旅の物語』

藤川幸之助著 株式会社harunosora 2021年

## Pick Up！ ～逆境を行く！若手研究者たち～

バッタが好きすぎてバッタアレルギーを発症するほどの筆者が、異郷の地、アフリカはモーリタニアで七転八倒する科学冒険就職ノンフィクション。研究費の獲得のためには、メイクだってコスプレだってなんのその。ニコニコ超会議にも出演しちゃう筆者のバイタリティーは感心させられます。ただ、カラー写真が多く掲載されているので、虫嫌いの方は要注意。

『バッタを倒しにアフリカへ』 前野ウルド浩太郎著  
光文社新書 2017年 486.45/M 【開架】



世界の土はたった12種類、その中でも作物を育てられる肥沃な土壌はごくわずか。実は遠くの星たちよりも、足元の土の方がわかっていないことが多いのです。

スコープ片手に世界中を飛び回る筆者は、税関に獲物(土)を没収されて咽び泣き、不審者として職務質問され、それでも研究に突き進む！

『土 地球最後のナゾー100億人を養う土壌を求めて』  
藤井一至著 光文社新書 2018年 613.5/F 【開架】

お隣の国、韓国で“研究奴隷”として生きている若手研究者が、苦しみとそれでも楽しい科学する日常をつづっている。

研究対象はガンの早期発見にも用いられる「線虫」。この性質は、九州大学の研究者が2019年に発表し、2022年に実用化されたごく最近のもの。

『『社会の役に立つ研究』ってなんだらう？』と思いながら、ご一読を。

『くだらないものがわたしたちを救ってくれる』  
キム・ジュン著／米津 篤八訳 柏書房 2022年  
467.2 /K 【開架】

